

個人山行

## 御坂：富士山（御殿場ルート）

- ◆日程 2020年4月25日（土）  
 ◆メンバー L：HY（単独）

湘南封鎖…1年半ほど前から真面目にランニングに取り組むようになったおかげで、以前のように無理して山に行くことはほぼ無くなった。行きたい山の天気が悪ければ、あっさりランニングに切り替える。GW前のこの週末は越後三山の中ノ岳を巡る1泊2日の山行を計画していたが、コロナウィルス緊急事態宣言が発出される中、さすがに新潟まで行くのは躊躇してしまう。天候や積雪状態等を的確に判断すれば山での遭難リスクはある程度コントロールできるが、長距離移動に伴う交通トラブル等のリスクはどうしても高くなる。何かあれば批判を浴びるし周りの人々に負担と迷惑を掛けてしまう。山はやめて湘南で30Kランでもしようかと考えていた矢先、湘南封鎖のニュースを知る。県外からの来訪者を防ぐため、海岸添いの駐車場を閉鎖しているという。2週前に利用した平塚の日帰り温泉「湯乃蔵ガーデン」も臨時休館とのことで、駐車場の確保がかなり難しそうだ…ロックダウンこそないが、さすがに国も自治体もやれることをやってくる。富士五湖でのランニングも検討したが、それだったらいっそ富士山に登ろうか、という思いに至る。元々この4月に「富士三昧」と称して、2泊3日で富士登山、三ツ峠でのクライミング、富士五湖での30Kランニングを行う構想もあったのだ。

おそらく20年ぶりの富士登山。初めて登ったのは1995年3月初旬の「野外学校F.O.S」での「厳冬の富士」。前年12月の「八ヶ岳クリスマス山行」以来再会する戸高雅史さん他10数名で御殿場口から1泊2日で冬富士に登った。風雪の富士登山で上部はラッセルが続き、途中からはひどい高度障害も出て、登頂後の下りでは10歩歩いて座り込んでしまうという状態になり、夜遅くなったの下山となった。大阪へ帰る新幹線に間に合わず、一人沼津駅で夜を明かすことになった。以来数回富士山に登っているが、一度富士吉田駅から歩いて登った吉田ルート以外は全て御殿場ルートで、特に4月上旬に登ることが多い。ほとんど人と会うことなく富士の頂に向かって春の堅雪をサクサクほぼ一直線に登っていけるところがいい。まさに「富士山丸かじり」という感覚。新五合目からの標高差は2300mもあり、海外の高峰登山に向けての高所トレやロングルートのワンデイアッセントのトレーニングを兼ねて登ることが多い。ネットで通行状況を確認したところ、緊急事態宣言を受けて全ての登山口への車道が通行止めになっているが、御殿場口は他ルートと比べて通行止め区間が短い。これなら許容範囲だ。

## 4月25日（土） 天候：快晴

3時横浜出発予定が1時間遅れになってしまったが、道路は空いていて（自粛だから当たり前か）気持ちよく走っていると、バックミラーにパトライトを回した覆面パトが…ヤラれた！少し様子がおかしいと思いつつスピードダウンして少し先のPAに進入し、止まりかけると、パトカーの警官が何か言葉を発しながら（何を言っているか聞き取れず）横を追い抜いていった。警告ということか？助かった…本線に復帰すると、すぐ先で別の車が捕まっていた…ぎりセーフ。この先も普通のパトカーが走っていたりと、やたらとパトカー密度が高いのは緊急事態宣言と無関係ではなかろう。出鼻をくじかれることなく御殿場口を目指す。新五合目への道はゲートで通行止めになっていたが、トンネルの先に小さな駐車スペースがあり、車が5台ほど止まっていた。ここに駐車して出発準備をしていると、後から車でやってきた単独の青年が話し掛けてきた。私と同じルートを登るらしく、アプローチの確認だった。

計画通り6時に出発。目標は8時間での往復だが、通常より下からの出発なのでまあ難しいだろう。高度計の表示は1280mなので、山頂まで丸々2500mの標高差に登下降することになる。大砂走りを経て、標高2000m前後から雪の上を歩くようになる。



大砂走り上部から富士山を仰ぎ見る

紺碧の空と白い富士のシンプルな光景がどこまでも続き、静謐の時間が流れる。標高 2350m ぐらいでアイゼンを付け、先行者のトレースを追っていく。やがて遠くに先行者 2 名の姿が見えてきたが、2 人は宝永山の方に向かい、その先は慎重に滑降してくる単独スキーヤーを見かけた以外、誰にも出会うことはなかった。頂上直下の急斜面は露岩と雪と氷のミックス帯が続き、ようやく山頂へ。いつもながら誰もいない富士山頂。



山頂直下 紺碧の空と岩・雪・氷のミックス帯



富士山頂の火口

山頂で何枚か写真を撮って下降を開始。部分的に氷化した急斜面の下り。一度滑り始めたらまず止まらないだろう…絶対に転ばない、滑らない、細心の注意と身体の動きが求められる。下部まで下って傾斜が緩くなるとアイゼンを付けたままスケータリングで走り滑る。大砂走りとの境目で憩っている2人組は登山者ではないようだ。入山時に会った単独の青年には出会うことなく、16時に駐車地に到着。結局10時間での往復となり、目標の8時間に遠く及ばず。サクっととはいかなかったが、気持ち的にはニアリーサクっとぐらいか…それにしても標高差2500mものワンデイアッセントができる場所は本当に貴重だと思う。

長い下りで結構脚にきていたから、翌日のランニングは厳しいだろうと半ばあきらめていたが、翌朝の筋肉痛は意外に大したことなかったので、朝食前に横浜25Kラン。朝食前に走るのはエネルギー源として糖質を使わずに脂肪を使う効果を狙ってのことだが、朝ラン、朝食後の早い時間にお気に入りのパン屋に行くという目的も併せ待つ。人気のパン屋はコロナ自粛のせいか午後遅い時間に行くと品切れで店が閉まっていることもあるのだ。この日はさらに夕方から二部練でもしようかと思っていたが、夕方頃から酷い筋肉痛が始まった！そういうことか…しかし、モノは考え様。筋肉痛が1日遅れでやってくるのであれば、その前なら動けるということか…ある意味盲点というか目から鱗。昔読んだ台湾の遯溪（沢登り）の記録にある「崩れる前に跳べ！」という言葉を思い出した。「痛くなる前に走れ！」というのもありか。

(記：HY)

CT：御殿場口太郎坊下ゲート 6:00 - 新五合目 6:25 - 富士山頂 12:40/12:50 - 御殿場口太郎坊下ゲート 16:00



今回の御供「オルトボックス ピーク 45」3月にカモシカで安く買った優れモノ